

令和八年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(佐藤健二「演説」と「挨拶」の公共圏―声の力の原点から考える―)

熊野純彦・佐藤健二編『人文知3 境界と交流』東京大学出版会、

二〇一四年、二〇〇―二〇七ページ、抜粋・一部改変)

問一 傍線部「式辞」「挨拶」の双方が、この「問答」が示唆する相互性の実質を思い出せないような無意識の領域に抑圧してしまっていることのほうが、公共性の構築をめぐる課題として重要である。」について、

- ① 「式辞」「挨拶」の公共性について、本文に即して三〇〇字以内で説明しなさい。
- ② なぜ著者は「公共性の構築をめぐる課題として重要である」と考えたのか。「相互性の実質」を踏まえながら三〇〇字以内で述べなさい。

問二 現在のSNSなどでの発信は、課題文にある「式辞」「挨拶」とどこが共通していて、どこが違うと考えるか。本文を踏まえて六〇〇字以内で答えなさい。

* SNSは、Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）の略で、インターネットを介して交流する仕組みのこと。代表的なものにX（旧 Twitter）、Instagram、Facebook、LINEなどがある。

令和八年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、アドミッション・ポリシーとして、研究対象である琉球アジア言語文化圏（沖縄、日本、中国、台湾、朝鮮半島）の言語、文学、文化、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を有し、彼我の相違と類似性の面に目を向けつつ主体的・積極的研究のできる人を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、近代日本に展開した演説、式辞、挨拶と社会性や公共性との関わりを論じ、さらに演説、式辞、挨拶が公共的になる一方で、形式化や儀式化も進み、その意味が空虚になっていったことも指摘した文章である。本出題の意図は、式辞と挨拶の持つ公共性の差異を、著者の意見を踏まえて正確に読み取ることができているかを問うたものである。加えて、現在、社会に影響を与えているSNSとの比較を通して、公共性の変化（再構築）や個人と社会との関わりについて論述させることによって、受験生の理解力や発展的な思考力、論理構成力、言語表現力などをみることにある。